

| | |
|---------|-------------------------|
| 認定案 第1号 | 2014(平成26)年度 第1回理事会 |
| 報告 第1号 | 2014(平成26)年度 第1回評議員会 |

2013(平成25)年度 事業報告

2013(平成25)年4月1日～2014(平成26)年3月31日

公益財団法人

市川房枝記念会女性と政治センター

=目次=

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 法人運営に関する事項 | 1 |
| 2. 公益・収益事業の概要 | 2 |
| I. 政治教育・人材養成事業（公益一） | 2 |
| II. 情報収集・保存・提供・発信事業（公益二） | 4 |
| III. 出版及び調査・研究事業（公益三） | 4 |
| IV. 国内外組織連携及び支援事業（公益四） | 5 |
| V. 建物の賃貸事業（収益） | 6 |
| VI. その他本財団の目的を達成するために必要な事業 | 6 |
| VII. 市川房枝生誕120年・没後30年、財団創立50周年記念事業 | 6 |

1. 法人運営に関する事項

○役員 2014年3月31日現在の役員 理事13名、監事1名

理事長 目黒依子 常務理事 日高みさお・若菜允子

理事 安陪陽子・市川ミサオ・大日方すみ江・久保公子（事務局長兼）・笹間 薫・
進藤久美子・仁科弥生・橋本ヒロ子・矢澤澄子・山口みつ子

監事 住田啓子

○評議員 2014年3月31日現在の評議員 11名

上野スズ子・枝松 栄・大山七穂・隈部紀生・栗林和子・鈴木那智子・松本惟子・
三浦まり・村越まり子・毛利亮子・山口美代子

理事会

| 開催日／場所 | 協議・報告事項 | 審議結果 |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 2013. 5. 28 ／婦選会館 | 協議事項 1) 2012（平成24）年度事業報告承認の件 2) 2012（平成24）年度決算報告承認の件 | 承認 承認 |
| 2013. 10. 22 ／婦選会館 | 報告事項 1) 寄付金に対する税制優遇措置について 内閣府に申請中である。 2) 2014（平成26）年度事業の計画案の作成について 10.15提出分の企画案は17件である。 3) 『女性展望』の新体制について 新年度から月刊を年間6回の発行とする。 4) 特別記念事業について 11.25連続講演会「私の市川房枝論」を開催する。 5) 第31回市川房枝女性の政治参画基金について 「田中寿美子さんの足跡をたどる研究会（代表・井上輝子）」 に決定した。 | 報告 報告 報告 報告 報告 |
| 2014. 3. 22 ／婦選会館 | 報告事項 1) 2011-2013市川房枝生誕120年特別記念事業終了について 2) 『女性展望』リニューアルについて 表紙デザインについてプレゼンテーション実施など。 3) 税額控除証明書の発行について 2013.11.6付で内閣総理大臣から「税額控除に係る証明書」 が交付された。 4) 役職員職務執行状況報告 理事長・常務理事2名より各々職務執行状況を報告。 協議事項 1) 2014（平成26）年度事業計画案決議の件 2) 2014（平成26）年度収支予算案決議の件 3) 維持員制度1万円会員特典変更の件 4) 時間貸室料金設定改定の件 | 報告 報告 報告 報告 承認 承認 承認 承認 |

評議員会

| 開催日／場所 | 協議・報告事項 | 審議結果 |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 2013. 5. 28 ／婦選会館 | 協議事項 1) 2012（平成 24）年度事業報告承認の件 2) 2012（平成 24）年度決算報告承認の件 | 承認 承認 |
| 2014. 3. 22 ／婦選会館 | 報告事項 1) 2011-2013 市川房枝生誕 120 年特別記念事業終了について 2) 『女性展望』リニューアルについて 表紙デザインについてプレゼンテーション実施など。 3) 税額控除証明書の発行について 2013. 11. 6 付で内閣総理大臣から「税額控除に係る証明書」 が交付された。 協議事項 1) 2014（平成 26）年度事業計画案決議の件 2) 2014（平成 26）年度収支予算案決議の件 3) 維持員制度 1 万円会員特典変更の件 | 報告 報告 報告 承認 承認 承認 |

2. 公益・収益事業の概要

公益事業は、創立者、市川房枝の理念を基に、女性有権者の政治教育を主たる事業とし、住民参加型選挙による女性地方議員養成や現職議員のための政策研修などを行ってきた。2010 年からは市民、特に女性のガバナンス意識を啓発し指導するような新企画を加えるなど、創立者の理念と実践を今日につなげ、方針決定への参画におけるジェンダー平等が国際社会において下位グループに属する日本の状況を改善するために事業内容の深化を図っている。

2013 年度は継続事業のほか、脱原発・女性政策・政治教育を学ぶドイツスタディツアー、市川房枝生誕 120 年記念事業の講演会や出前事業、新刊 2 冊（別に、他の出版社より 1 冊）の刊行など、特色のある事業を展開し、新たな参加の広がりが見られた。また定期刊行誌『女性展望』のリニューアルに向けた検討も重ね、2014 年度より編集企画委員会を強化し、誌面も増頁・隔月刊とすることで内容を一層深め、さらに広く情報を発信できるようにした。

他方、収益事業の柱は財団の安定的な運営のためのテナント事業である。幸い、3 階の 4 室は前年度に引き続き満室状態で、所期の目的は達成されている。時間貸室も、従来からの利用者だけでなく、近隣の代々木地域や近隣の事業所、市民団体などの利用が広がっている。なお、2014 年度実施の消費税増税については、2013 年度末に各入居者の了解を得た。また時間貸室についても、各室について若干の値上げに踏み切り、年度末から予告をして周知に努めた。

I. 政治教育・人材養成事業（公益一）

(1) 政治参画フォーラム アカデミー

- ① フォーラム 2013 子どもたちに笑顔を一学校・いじめ・貧困、さまざまな連鎖を考える（2013. 5. 11-12 参加者 33 人）

講演「教育の課題と新しい社会づくり—何をめざしていけばよいか」広田照幸・日本大学教授／特別メッセージ「ベアテさんから憲法 24 条の意義を引き継ぐ」上村千賀子・群馬大学名誉教授／講演「子ども・若者の居場所づくり—いのちに寄り添う現場から」西野博之・NPO 法人フリースペースたまりば理事長／講演「子どもたちに伝えたいこと、伝えたいこと—心療外来から見えること」生野照子・浪速生野病院心身医療科部長、前大阪府教育委員会委員長

- ② フォーラム 2013 真の豊かさを実現する社会保障制度をめざして (2013. 10. 26-27 参加者 28 人)
講演「どう変わる?介護保険—プログラム法案と 2015 年度改正」小竹雅子・市民福祉情報オフィス・ハスカップ主宰/2013 ドイツスタディーツアーレポート (脱原発・エネルギーほか) /講演「どうする?…社会的関心を失わせる個人化社会の進行」暉峻淑子・埼玉大学名誉教授/講演「『支え合い』のシステム転換 弱い個人で強い社会を」宮本太郎・中央大学教授
- ③ フォーラム 2013 現政権による自治体への影響を読み解く (2014. 1. 31-2. 1 参加者 41 人)
講演「今こそ自治と分権が問われる」福嶋浩彦・中央学院大学教授、元千葉県我孫子市長/情報提供「特定秘密保護法と自治体—住民の自由と地域の自立に対する脅威」桂 敬一・日本ジャーナリスト会議委員/講演「自治体議会の役割・責任の拡大」「2014 年度自治体財政 (速報、視点、課題)」菅原敏夫・自治総研非常任研究員

(2) 政治参画フォーラム 夏期セミナーなど

- ① 脱原発 1 日セミナー —ふくしまから学ぶこと、これからのエネルギーを考える (2013. 7. 6 参加者 41 人)
基調講演「いのちを守るために—国会事故調から見えたこと」崎山比早子・元国会事故調委員/パネルディスカッション 井戸川克隆・前福島県双葉町長、小澤祥司・環境ジャーナリスト、細川かをり・福井県議
- ② ドイツスタディーツアー (脱原発・女性政策・政治教育) (2013. 7. 8-17 参加者 19 人)
訪問先・面会者=緑の党連邦議会議員 モニカ・ラツアール/ベルリン自由大学教授 ミランダ・シュラーズ/ベルリン州政府政務次官 ヘラ・ドゥンガー=レーパー/ベルリン州政治教育センター ヨアヒム・メルフォート/ベルリン・エネルギー・エージェンシー ダニエル・ヘッセ/エネルギーを市民の手に アーウェン・コレル/エネルギー・マネジメント社 クリスティネ・シンク/エコの村プロドヴィン スザンネ・ポインケ/女性起業支援センター タニヤ・ベルガー/ジャーナリスト 永井潤子/「みどりの 1kWh」執筆者

(3) ジェンダー平等政策サロン

- ① 「なぜ女性議員を増やすべきか」 (2013. 5. 25 参加者 24 人) 三浦まり・上智大学教授
- ② 「ジェンダーとソーシャル・キャピタル—信頼性・互酬性の規範・ネットワークが女性の政治参画を推進するか」 (2013. 7. 27 参加者 35 人) 大山七穂・東海大学教授
- ③ 「ジェンダー課題への国際社会の取組み: UN Women・DVD でみる災害と性暴力・平和構築・ジェンダー予算」 (2013. 9. 28 参加者 27 人) 三輪敦子・UN Women 日本国内委員会理事
- ④ 「無償労働の評価とジェンダー平等政策」 (2013. 11. 30 参加者 23 人) 橋本美由紀・法政大学大原社会問題研究所研究員

(4) 女性史セミナー

- ① 近代「近代日本の政治と女性—女性が求めた政治」 (2013. 10. 3 参加者 37 人)
永原和子・戦後女性史研究和の会代表
- ② 近代「婦人参政権運動と政治教育」 (2013. 11. 18 参加者 29 人)
国武雅子・長崎純心大学非常勤講師
- ③ 近代「『女性の国民化』と学校教育—昭和戦前期の『公民科』をめぐる」 (2013. 12. 5 参加者 29 人) 友野清文・昭和女子大学准教授
- ④ 現代「国家が家庭に注目する時—訓令『家庭教育振興ニ関スル件』をめぐる動向」 (2014. 1. 16 参加者 29 人) 伊藤めぐみ・早稲田大学非常勤講師

- ⑤ 現代「女性の学びが拓く『平和・協同・自然』の世界」(2014. 2. 6 参加者 31 人) 米田佐代子・らいてうの家館長
- (5) 集中セミナー 変動期の女性と政治—いま、あらためて女性学を学ぶ
 - ① 「第二波フェミニズムと女性学の誕生」(井上輝子・和光大学名誉教授 2014. 4. 23 参加者 18 人)
 - ② 「国際女性年と女性行政の展開」(同 2013. 5. 7 参加者 21 人)
 - ③ 「性役割の政治学」(同 2013. 5. 21 参加者 22 人)
 - ④ 「ジェンダーとセクシュアリティ」(同 2013. 6. 18 参加者 19 人)
 - ⑤ 「女性の状況の変化と停滞」(同 2013. 6. 25 参加者 20 人)
- (6) 集中講座 憲法の基本を学ぶ—参院選挙を前に
 - *①②は植野妙実子・中央大学教授、③～⑤は藤野美都子・福島県立医科大学教授
 - ① 「憲法制定過程と日本国憲法の基本原理」(2013. 4. 13 参加者 31 人)
 - ② 「教育をめぐる権利と自由」(2013. 4. 20 参加者 26 人)
 - ③ 「国家の安全保障対個人の平和的生存権」(2013. 6. 1 参加者 25 人)
 - ④ 「法の力による男女平等社会の実現」(2013. 6. 8 参加者 24 人)
 - ⑤ 「『安全な』社会を構築する社会保障制度」(2013. 6. 15 参加者 25 人)

II. 情報収集・保存・提供・発信事業(公益二)

- (1) 史資料の整備と公開—ライブラリー・アーカイブズ
 - ① 「市川房枝戦後史資料」の整理(継続事業)
 - ② 図書・史資料の公開 閲覧サービス 94 件、レファレンスサービス 48 件
 - ③ 出版社などへの史資料提供 16 件
 - ④ 愛知教育大学「生誕 120 年記念特別展 市川房枝」に特別出展協力(写真パネル 27 点、写真データ 5 点、現物 12 点。2013. 5. 25—7. 7)
- (2) 市川房枝記念展示室の公開
 - ① 見学者 個人 162 人、グループ 7 件 101 人
 - ② 展示室内での撮影協力 1 件
- (3) 冊子「財団事業報告書(2007-2012)年度」刊行準備
- (4) ホームページ管理・運営

III. 出版及び調査・研究事業(公益三)

- (1) 『女性展望』刊行

1954 年創刊の女性と広義の政治課題を中心とする専門情報誌。通巻第 657-667 号発行(11・12 月は合併号)。リニューアルに向けて検討の結果、2014 年度より隔月刊、誌面は 8 頁増の 28 頁(新年号は 32 頁)とすることを決定。テーマをより掘り下げて誌面充実に努めることとなった。
- (2) 『女性展望』創刊 60 周年記念事業

総索引のデータベース公開準備(データ入力作業継続)
- (3) 女性展望カフェ
 - ① 「ドイツの脱原発政策の根源は何か」(2013. 9. 3 参加者 49 人) ミランダ・シュラーズ・ベルリン自由大学教授
 - ② 「東電福島第一原発事故一人々のいのちは守られているか」(2013. 10. 30 参加者 22 人) 崎山比早子・元国会事故調委員
 - ③ 「報道ドキュメント『東電テレビ会議 49 時間の記録』を観る」(2013. 12. 14 参加者 46 人) 木村英昭・朝日新聞記者

- ④ 「いま私が考えていること―夢よもう一度? 2020 オリンピックの真の狙い」 (2014. 1. 24 参加者 30 人) 森まゆみ・作家
- ⑤ 「新聞家庭面から見た女性史―読売新聞『家庭面』100 年の歴史から」 (2014. 3. 5 参加者 20 人) 斎藤雄介・読売新聞生活部次長
- (4) 『地方政治ドキュメントⅡ 議会はあなたを待っている 市川房枝政治参画フォーラムでの学びと実践から』刊行 (2014. 3. 25 編発行・市川房枝記念会女性と政治センター)
- (5) 市川房枝研究活動 (市川房枝研究会)

2005 年発足の市川房枝研究会は 9 年目に入り、第 2 期成果の刊行をみることとなったが、第 3 期のテーマ「戦後の市川房枝」の研究活動も並行して行った。以下の③④-1)は市川房枝生誕 120 年記念事業の一環として実施した。

 - ① 研究会

研究員：伊藤康子 (主任研究員)・枝松 栄・国武雅子・久保公子・進藤久美子・鈴木尚子・八木博子・山口美代子・横澤清子

第 3 期テーマ：戦後の市川房枝

研究会開催日：2013. 11. 15-16、2014. 3. 20-21
 - ② 『市川房枝の言説と活動 年表でたどる婦人参政権運動 1893-1936』の刊行 (2013. 5. 15 編者・市川研究会/発行・市川房枝記念会女性と政治センター)
 - ③ 『写真集 市川房枝』刊行に協力 (2013. 5. 15 編著・市川研究会/監修・市川房枝記念会女性と政治センター/発行・ドメス出版)
 - ④ 講演会
 - 1) 『市川房枝の言説と活動Ⅱ』『写真集市川房枝』刊行記念講演会 (2013. 11. 15 参加者 40 人。無料)

「市川房枝は何とたたかったのか」伊藤康子・市川房枝研究会主任研究員

「市川房枝さんの生きた明治、大正、昭和という時代」佐藤能丸・早稲田大学非常勤講師
 - 2) アンコール講演会「市川房枝の生きた時代」 (2014. 3. 19 参加者 27 人)

「市川房枝一人、仕事、暮らした社会」伊藤康子 (同上)

「市川房枝さんの生きた時代―治安関係の法律を中心に」佐藤能丸 (同上)

IV. 国内外組織連携及び支援事業 (公益四)

(1) 国内外女性団体活動に対する協力

- ① 目的を共有する女性団体の連絡事務所として活動を側面援助

日本婦人有権者同盟、特定非営利活動法人日本 BPW 連合会に対して婦選会館の施設を低価格で賃貸し、また国連 NGO 国内婦人委員会、国際婦人年連絡会に対して連絡事務所として事務所機能を支援している。
- ② 「国の第 3 次男女共同参画基本計画と 2014 年度予算案を聞く会」開催 (2014. 2. 25 参加者 35 人) 日本婦人有権者同盟と共催。内閣府・文部科学省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省の担当官出席。
- ③ 各界女性新年交歓会 (2014. 1. 10 参加者 105 人)

新年恒例の事業。女性団体、行政、国会議員、ジャーナリストらが集い、料理を囲んだ交流の場を提供している。
- ④ 国内研修などへの協力

熊本県ほかからの国内派遣研修など 7 件に対応。

(2) 支援事業

「第31回市川房枝女性の政治参画基金」による助成希望を7～8月にかけて公募し、基金事業選考委員会で審査の結果、「田中寿美子さんの足跡をたどる会（代表・井上輝子）」に10万円助成することを決定。11月15日、財団創立51周年記念維持員のつどいで発表、助成金を贈呈した。助成金により「戦後を代表するフェミニスト政治家田中寿美子（1909-1995）の関連資料を収集し、冊子を刊行する」活動が行われる。

V. 建物の賃貸事業（収益）

(1) テナント

前年度に引き続き、婦選会館3階フロアの4室を4件に賃貸している。

| 部屋番号 | 入居者名 | 平米数 | 契約日 | 入居日 |
|------|------------|-----------------------|------------|-------------|
| 301 | (株)アトリエ福 | 65.33 m ² | 2011.6.30 | 2011.8.1 |
| 302 | (株)青山IGC学院 | 28.92 m ² | 2011.9.1 | 2011.11.1 |
| 303 | 日本BPW連合会 | 28.60 m ² | 2009.1.30 | 2009.2.1 |
| 304 | 日本婦人有権者同盟 | 48.49 m ² | 2008.10.31 | 2008.11.15* |
| 計 | | 171.34 m ² | | |

*日本婦人有権者同盟は1962年開館以来賃貸しているが、2008年の耐震補強・改修工事で一時退去のため、再開後の入居日を記載した。

(2) 時間貸室

国際婦人年連絡会91回、おとなの英語クラブ89回、おとなの英語勉強会69回、野間ロクラス46回、山森クラス36回、講座日本史18回、縫田自主ゼミ10回、ささの葉の会・戦争を考える映画の会各9回、全国保険医団体連合会8回、東放学園映画専門学校6回、中央法規出版(株)・(株)アトリエ福・CMCC各5回、介護労働ホットライン実行委員会4回、国連NGO国内婦人委員会・ダグウッドクラブ・UN Women日本国内委員会各3回、ヤマハリビングテック(株)・ジェンダー・アクション・プラットホーム・NPO法人日本BPW連合会各2回、市民政治研究会・NPO法人横浜こどものひろば・女性「九条の会」・NPO法人循環型社会推進協会・(株)デザインスタジオドアーズ・中村邦生の会・高畠ゼミOBOG会・公益社団法人東京社会福祉士会・大月書店・都留文科大学・上智大学・ベルテ代々木II管理組合・日加協会・立教女学院・本尾・ファミリーコンサルタント協会各1回（合計441回。1日通しで利用の場合、2回〈午前・午後各1回〉とし、また同日、同一団体が複数の部屋を利用の場合、各部屋ごとに1回と数えた。）

VI. その他本財団の目的を達成するために必要な事業

(1) 財団創立51周年記念維持員のつどい（2013.11.15 参加者30人）

財団の近況報告や第31回市川房枝女性の政治参画基金の贈呈、公益財団に移行したことによる維持員制度の説明、ドイツスタディツアーのレポートなどを行った。

(2) 新公益法人移行事業

寄付金に対する「税額控除に係る証明」の交付（2013.11.5）に伴い、維持員及び寄付者に対し、確定申告により税制上の優遇措置を受けられることを周知した。

VII. 市川房枝生誕120年・没後30年、財団創立50周年記念事業

(1) 出前でトーク「こんにちは、市川房枝です」（2013.10.17 石川県女性センター 参加者約50人）

市川及び財団と縁の深い地域を訪ねて新しい関係を結ぶ企画。「ほたるの会（北陸婦人問題研究所の後継団体）」との共催。DVD「八十七歳の青春」一部上映、講演「身近な市川房枝さん」山口美代子・財団評議員、話し合い。

- (2) **財団創立 50 周年記念コミュニティバザー**（2013. 11. 15－16 参加者延べ 340 人）
個人寄贈 41 件、委託品出品業者 3 件、協賛企業 15 社の協力により、地域住民はじめ維持員、テナント関係者が集い、交流する場ともなった。
- (3) **連続講演会「私の市川房枝論」**（2013. 11. 25 四谷区民ホール 参加者約 200 人）
「女性のために働く一後に続くひとりとして」角田由紀子・弁護士、「転換期の政治と経済」岸井成格・ジャーナリスト、「国際婦人年と市川房枝さん」樋口恵子・評論家。
- (4) 『市川房枝写真集』刊行（監修・財団／編著・市川房枝研究会／発行・ドメス出版）
- (5) **指定寄付金募集**
- (6) **グッズの制作と発売**
市川房枝生誕 120 年・没後 30 年、財団創立 50 周年記念事業グッズ（追加）として、新たにトートバッグ、市川房枝ポートレート 50 円切手、水彩画絵葉書（原画提供・日高みさお）4 種を制作。連続講演会「私の市川房枝論」（2013. 11. 15）から発売を開始した。
- (7) 『市川房枝記念会の 50 年—覚書、事業と人（仮題）』編集（継続事業）